

さんま、秋鮭、梨、栗、いちじく。実りの秋をおかげさまで浄光寺で二度目、「みのり」の秋を迎えます。阿弥陀様の前で、みなさんと一緒に手を合わせ、お念仏申させていたたく瞬間、なんとも言えない心の安らぎを感じます。お念仏に出遇わなければ、決して味わうことのなかった「ご縁」のぬくもりです。親鸞聖人が「一切の有情はみなもつて世々生々の父母・兄弟なり」とお言葉を遺しておられる様に、わたし達はみんな、お念仏のご縁で繋がった、おおきな家族なのだと思います。遙か昔の先人達から、現在のわたし達に至るまで、どれだけの人々が、どれほど喜ばれてお念仏申されてきたことでしょうか。時間と空間を超えた、大家族のたくさんの方々がここにいます。

人生は「パズル」の様だと思えます。わたし達は、自分が何歳まで生かされるのか、どんな人生を歩むことになるのか、わかりません。

でも、ひとつだけ思うことがあります。いつも一人で、必死に生きているつもりでいても、それは氷山の一角であるという事です。遠い昔から、数えられないほどの、いろんな人や出来事との出会い「ご縁が、偶然の必然で、繋がってきたところに「いま」の自分

「人生という名のパズル」

能美 真由良

分があります。その瞬間、瞬間の「ご縁」を、パズルのピースの様に思えます。思いがけずに、いただいたパズルの、一カケラ一カケラを組み合わせていきます。どんな絵ができるのか。小さい頃わたしは、簡単なパズルを手にはしては、眠らずにムキになって完成を目指しました。

でも、先を急がなくても良かったなと、この歳になって思えます。自分の人生を、振り返ってみても同じです。がむしゃらに歩いてきましたが、それよりも、いま自分は、どんなパズルのカケラを手にはしているのか。どんな「ご縁」をいただいているのかを、心を研ぎ澄ませて、よく見て、味わって、感じる。そこに「よるこび」があります。ひとつずつ、パチツとパズルは合わさってゆき、いただいたカケラばかりで、いつか絵は完成されます。

世間で「縁がない」は男女間のことを言いますが、仏教的には、すべてのものが「ご縁」で成り立っています。

「ご縁は、みんなにあります。この自分も、ご縁で出来ています。阿弥陀様の光に照らされて、それに気づかされること、それを感じることに、それに感謝することで、パズルを完成させるまでの過程を、この命終えるまでの過程を、「よるこび」で満ちたものに変えてしまおうのだと思います。

合掌



浄光寺の秋風景

毎月一回都野津説教所にて「日曜学校」を開いています。遊びに来てください。また、お寺に縁のある若い方が集まっての「仏教青年会」を考えています。乞うご期待！！



【 今月の言葉の解説 】親鸞聖人 86 歳の時のお手紙にあることばで、最晩年にたどり着かれたお心を吐露されています。自然と書いて「じねん」と読みます。如来様の誓いはすべての衆生をすくうためであるのですから、自力のはからいでことさらに分別せずに、おのずからご縁のままに物事が動いていき、全て願われてすくわれていくことを自然法爾と述べられました。

仏婦活動報告



「夏のつどい」思い

都野津町 森口成子



三年目を迎えた夏のつどい。仏婦の皆さんもそれぞれの担当の持ち場で、張り切って仕込みをし、出店準備に余念がない。恒例のフリーマーケットも定着して、お客さんの出足も上々。

そんな中、心配していた雨が結構強く降りだした。時折窓際に寄って天を仰ぐ。幸いにも間際になって嘘のようにながった。真夏日の極暑から涼しさを運んでくれたお蔭でしのぎやすい夕べとなった。ところで試みに始めた送迎シャトルバス如何だったでしょうか？

また、感想をお聞かせください。

お参りの人たちも例年よりも多く、仏婦出店も他団体を含め、早いうちから売売となり、バンド演奏・カラオケ・くじ引きと盛り上がり、盆踊りは嘉久志・和木・都野津の三団体が快く参加して下さいました。残念なのは「親鸞音頭」が覚えきらなかつたこと。これからの行事に向けて練習していきたいと思つた。この「夏のつどい」これからも定着していくようにみんなで団結して頑張りましょう。

(8 ページにバザーの収支報告があります。)



今年は亡き人を偲んで盆踊りの前に黙想とお勤めをしました。



7/20(日) よろこぼう屋さんを訪問しました。



七月二十日(日)福屋組仏教婦人大会が備後の福岡義朝先生をご講師に金城町久佐浄光寺で開催された。浄光寺仏婦から30名参加しました。お迎えくださる当番仏婦の皆さんの熱心な活動に頭が下がる思いでした。帰りはバスで和木町の介護施設「よろこぼう屋」さんを訪問して、施設見学の後入居者の皆さんと交流を深めました。歌も飛び出し、和やかで実り多い一日でした。

福屋組仏婦大会